

「事業名:ドローン人材育成から始まる地域産業の活性化 たむらモデルの高度化・普及事業」
平成30年度補助事業の実績・成果

慶應義塾大学 連携市町村:田村市

連携市町村との協定締結日:平成28年12月21日 現地拠点:田村市都路町 グリーンパーク都路)

事業のポイント

新しいテクノロジー＝ドローンの社会実装期を先取りし、十分なりテラシーを持つ人材を地域で養成。担い手不足を回避して、人材と産業をその地域に根付かせる地域活性化手法「たむらモデル」の実証事業。

今年度の活動実績

16回の田村市訪問・滞在で、「たむらモデル」の柱「ドローン人材育成」は小学生から大人までを網羅的に実践できた。福島県立船引高等学校、ドローンコンソーシアムたむら、地域の農業従事者、新規営農者、地元小学生らに対し、ドローン特別講座、ワークショップ、デモンストレーション、技術指導、防災訓練の支援、対話、プログラミング講義などを実施した。地域活性化については、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの学生と市民の協働によるフィールドワークを実施し、何気ない一言に課題が潜んでいること捉え、空からアプローチすることが新たな解決案に繋がりそうであることがわかった。



今年度の成果

ドローン人材育成プログラム

操縦者のヒヤリ・ハットやエラーに至る特徴的な送信機操作パターンを抽出した。船引高等学校での経験を踏まえ、指導実践ノウハウを教材化した。

ドローン産業振興プログラム

市内で新たに進められる営農ノウハウの少ない作物（ホップ）栽培のドローンによる高所作業の軽減、観察、農薬・肥料散布の省力化を検討した。

ソーシャルイノベーション

ニーズを明確化し、小学生向けのプログラミング教育、観光誘致に資する映像、町の移り変わりを把握するデータ収集の課題について実施・製作・調査した。

